

社会支援の仕組み充実を

娯楽の一つとして多くの人に親しまれているパチンコ。一方で過度にのめり込んだ結果、生活や家庭が崩壊し、多重債務を抱える人もいる。こうした「パチンコ依存」に苦しむ人への支援のあり方などを話し合うシンポジウムが先月、東京都内で開かれ、精神科医や司法書士、パチンコ店経営者らが出席した。

(前田利親)

パチンコは、
適度に楽しむ
遊びです。

2007年度
消費税率
11.5%

パチンコは、
娯楽の一つとして多くの人に親しまれている。一方で過度にのめり込んだ結果、生活や家庭が崩壊し、多重債務を抱える人もいる。こうした「パチンコ依存」に苦しむ人への支援のあり方などを話し合うシンポジウムが先月、東京都内で開かれ、精神科医や司法書士、パチンコ店経営者らが出席した。

リカバリーサポート・ネットワーク

050-3541-6420 (全国無料)

http://www.geocities.jp/rsknwsw/

リカバリーサポート・ネットワークのポスター。パチンコ店内での掲示が進められている

パチンコ依存考えるシンポ



パチンコ依存に苦しむ人への支援などについて、様々な立場から意見が寄せられた(東京都内で)

シンポジウムに先立ち、パチンコ依存問題相談機関「リカバリーサポート・ネットワーク(RSN)」(沖縄県)から昨年度1年間の相談内容の報告があった。RSNは、パチンコ店で働く全日本遊技事業協同組合連

動も進めている。RSN相談部の安高真弓さ

んによると、全国から9000件の相談があり、「パチンコをやめる(やめさせる)方法」が最も多く、「地域の相談先」「家族の接し方」を尋ねる内容が続いた。

6割が借金、多重債務も

罪悪感あるが止まらず

相談者の6割が借金を抱えていたが、安高さんは「家族への借金を勘定に入れていないケースもあり、実際はもっと多いのでは」と推測した。また、8割の人はこれまで相談経験はなく、悩みを抱えたまま孤立している現状も浮き彫りとなった。

このほかに、自治体の精神保健福祉センターと民間の支援団体が連携を図るなど「社会で支援の仕組みを充実させていく必要がある」との声もあった。

シンポジウムでは、依存している人の問題が中心となった。精神科医の伊波真理雄さんは、こうした人の特徴として▽問題を繰り返す▽のめり込みを隠すために周囲にうそを

RSNの相談電話は050・3541・6420。月曜～金曜(ただし祝日は休み)。時間は午前10時～午後4時。

言い、否認する▽使う金額が増える―などを挙げた。定期的な収入があり、会社の信用で借

金しやすいサラリーマンも多く、「普段はまじめに働き、週末はギャンブルにのめり込んでいる。罪悪感を抱えているのも特徴の一つ」と話した。回復施設を運営するNPO法人「ワンダーポート」(横浜市)理事長で司法書士の稲村厚さんは、多くの人が多重債務を抱えていることに触れ、「法律関係者は借金問題を重視するが、依存の問題を解決しなければ同じことが繰り返されてしまつ」と警告した。

大分県でパチンコ店を経営している力武一郎さんによると、来店客の10〜15%に依存傾向が見られるという。「RSNのポスター掲示を進めるなど、業界あげて問題に取り組んでいくべき」と訴えた。